資料№. 11-1

Ｈ29年度　地域生活移行部会振り返り・評価シート

Ｈ30年2月28日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

昨年度（平成28年度）に抽出した課題（身体・精神）の、より具体的な取り組み内容を検討する。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	6 回	開催月	５月・６月・７月・８月・９月・1月

〇具体的活動内容

◆身体分野では、「支援者が知らない・知る機会が少ない」という課題に対して、どのような取り組みが必要であり有効となるかを具体的に再度検討実施。
◆精神分野では、「身元引受人について」という部分において、どのような点が課題となり、それに対してどのような取り組みが必要かを掘り下げて確認し、検討を実施。

〇取り組みの結果及び成果　　※成果はモニタリングを実施した場合のみ

◆身障分野では、支援者が地域のことを知ることで、支援の幅が広がることや、利用者への関わり方等に良い変化が生じることを目標に、「支援者に向けの地域移行に関する研修会を実施する」という取り組みを行うため、ワーキング発足へつながった。
◆精神分野では、身元引受人や日常生活自立支援事業の役割や制度等を確認するためアンケートの実施や説明を聴くなどの取組みを実施。成年後見制度の普及啓発についての取組みを行うため、ワーキング発足へつながった。

2　今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気付き、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

A
・参加して、協議会の流れの理解につながった。
・部会員から、交代等で運営会議に参加してもらう等の形が良いかも。
　⇒全体が見えないと、協議会の全体が繋がらないかも。
・事務局が流れを含めて上手に行ってくれていた。
・精神Gは、「高齢化」だったが、この部分の共有から始まった。取り上げた内容は適切だった。
・部会は「協議会のひとつだ」ということの再認識⇒改めて、確認が必要
　　↳参加していないと分からない部分も（現場はわからないかも）
・精神Gの課題は、良いものであった。3障害の課題を一緒にやっていくことは難しい。
・協議会に参加している職員だけでなく、そこから組織での取り組みに繋げる必要があると感じた。
　⇒協議会を知らない人に、どうやって伝えていくか。
・【課題】運営会議の時間が長い。雰囲気が良くない。恐い。
・部会構成メンバーの検討。
・抽出した課題の解決に向けて注力すべきではないか。
・身体Gと精神Gの取組みが、どちらも「研修」で共通していることから、マッチングできるのではないか。
・課題について、量的に適正か考えた方がよい。

B
・部会とワーキングに参加していて、どちらの取組みのことか、混乱してしまった。
・ワーキング発足まで、かなり時間がかかってしまった。
・課題がたくさんあって、何から解決していくべきか戸惑った。
・身体Gのワーキングは、参加者が偉い人ばかりで緊張したが、勉強になった。
・身／知／精のグループに分かれたことが良かった。検討しやすかった。しかし、その反面、部会自体の立ち位置について分かりにくくなった。
・開催回数については、大変だったが対応困難な回数ではなかった。
・異動等を考えると、課題について1年以内に完結できるとベストではないか。

・成年後見制度と日常生活自立支援事業が利用できるような取り組みをお願いしたい。
・長期入院者を評価できる場があると良い。（病院と施設の中間の場）
・まずは、支援者の理解を深めることが優先であるため、今取り組んでいることを進めていきたい。
・入所者や入院者は、それぞれ様々な理由から、外出の機会は少ない状況。地域移行を検討しているが、実際の現場では、外に出にくい状況になっていないか。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	有	・身体障害の地域移行が進まない理由として、「支援者が知らない」ことを知った。 ・GHや入所施設の現状が分かった。 ・成年後見人の役割と求められる部分の理解が深められた。 ・成年後見制度に関する情報を共有できた。 ・病院やGH等対象にアンケートを実施することで、実態の情報が把握できた。 ・他施設の様子や取り組みについての情報が得られた。 ・知的Gのパンフレット作製により情報発信ができた。 ・現場の声を、上司に伝えることができた。 ・部会やワーキングに参加すること、集まって話をすること自体が情報機能。 ・課題抽出することが知ることに繋がる。 ・ワンアクションごとに、いろいろなことを知ることができた。 ・いろいろな分野での地域移行に対する課題があることがわかった。 ・それぞれのグループで活動していたが、共有の作業があったこと。 ・協議会活動を通じて、自身の事業所職員とも情報共有した。 【課題】協議会に関わっている人以外へ、どのように周知行っていくか。⇒協議会や地域課題が、地域へ馴染むかどうか。
調整機能	有	・課題の優先順位づけ。 ・課題の整理。 ・参加者の調整 ・知的グループのパンフレット作成場面において、当事者と支援者の見え方の調整を行った。 ・部会の進め方(各グループに分かれて行ったこと)。 ・計画立てて行えたこと ・協議会活動を通じて、自身の事業所職員とも情報共有した。 ・課題抽出のために様々な機関の意見を収集するための調整。 ・新たに出会った人と繋がったことで、連絡しやすくなった。
開発機能	有	・知的グループのパンフレット作成。 ・障害者向けの成年後見制度の研修があまりない中で、実施しようとしていること。 ・支援者向けの地域移行の研修を実施しようとしていること。 ・社協権利擁護支援課と一緒に今の制度を考えたこと。 ・成年後見制度の普及啓発(あるものを活用した) ・アンケートなど地域状況の裏付けをとり課題とした(地域診断)
教育機能	有	・成年後見制度についての理解が深まった。 ・パンフレットを作製した達成感や、チームプレーやユニバーサルデザインを意識した取り組み。 ・施設長クラスの方の話を聞いて、考えさせられることや気付けることが多かった。 ・情報機能＝教育機能ではないか。そのため、どうやってこれを発信していくかが課題。
権利擁護機能	有	・パンフレット作成の際、見やすさや、ご本人の同意などの配慮。 ・当事者の意向や思いを考えながら検討したこと。 ・当事者の知る権利(パンフレット等) ・地域移行部会そのものが権利擁護機能。みんなで地域移行について考えたことが権利擁護機能。
評価機能	有	・アンケートを実施し、現状把握と評価を行った。 ・日常生活自立支援事業と後見制度でできることを評価した。 ・各グループごとに、きちんと現状を見ながら課題を出すことができていた。 ・パンフレット作成時、いろいろな生活がある中で、どの部分を載せたらよいのかを検討したこと。 ・部会での取り組みを評価し、福祉計画に反映できたこと。 ・自分の現場を振り返り、評価を行いながら意見を伝えていた。 ・社会資源の評価が行えた。

3　来年度の取り組みについて

来年度の継続	**継続**　　終了	
継続・終了の理由	長岡市における障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築における「協議の場」として位置づけ、地域生活を送るための協議検討行っていく。	

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対するモニタリングの実施	有　　無	モニタリング実施時期	年　　月

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】　　※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】　　※来年度継続の場合

・地域包括ケアシステム構築に向けた協議の場として、協議検討を行う。まずは、地域の現状の確認から行い、メンバー間で共有しそれぞれの障害における課題として共通する部分について取り組んでいく。 ・部会の構成メンバーとしては、入所施設や病院障がい者が生活している事業所の方と、在宅支援の事業所の方等で検討。 ・必要に応じて、メンバーに家族会や当事者の方々への招集も検討。 ※地域移行だけではなく、住み慣れた地域で住み続けられることについても考えていくべき。そのため部会名は、現在の「地域生活移行部会」から、「どこでだれと暮らしたいか部会」に変更することを提案。